

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月10日
【四半期会計期間】	第27期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	サンヨーホームズ株式会社
【英訳名】	Sanyo Homes Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松岡 久志
【本店の所在の場所】	大阪市西区西本町一丁目4番1号
【電話番号】	(06) 6578 - 3403 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 福井 江治
【最寄りの連絡場所】	大阪市西区西本町一丁目4番1号
【電話番号】	(06) 6578 - 3403 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 福井 江治
【縦覧に供する場所】	サンヨーホームズ株式会社東京支店 (東京都千代田区一番町13番3号) サンヨーホームズ株式会社中部支店 (名古屋市千種区内山三丁目30番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第1四半期 連結累計期間	第27期 第1四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年6月30日	自2022年4月1日 至2022年6月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (千円)	7,278,789	6,899,060	51,123,408
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	1,067,526	993,866	545,599
親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) 又は親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	754,862	696,621	326,306
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	753,589	696,306	326,352
純資産額 (千円)	13,952,152	14,060,240	15,048,053
総資産額 (千円)	52,165,592	44,172,785	46,886,890
1株当たり四半期純損失 ( ) 又は1株当たり当期純利益 (円)	68.33	62.89	29.49
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	26.7	31.8	32.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第26期第1四半期連結累計期間及び第27期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第26期の潜在株式調整後1株当たり純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「1株当たり四半期純損失又は1株当たり当期純利益」の算定上、役員向け株式給付信託が保有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、2022年3月の新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の終了にとともに、経済活動への制限が順次緩和され回復傾向が続いております。一方で、サプライチェーンの混乱、急激な円安や資源・エネルギー価格上昇による原材料や物流コストの上昇等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

住宅業界におきましても、金融緩和政策の継続はあるものの住宅ローン金利は上昇傾向にあり、住宅資材価格等についても上昇しており、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、5月には毎年恒例の「エコ&セーフティ住宅まつり」をリアルとウェブを融合し開催しました。また、7月には第19回目となる「子どもECO絵画コンクール」を実施し、人と地球がよるこぶ住まいをスローガンとして地球環境を重視した活動を実施しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績については、売上高6,899百万円（前年同期比5.2%減）、営業損失997百万円（前年同期比68百万円改善）、経常損失993百万円（前年同期比73百万円改善）、法人税等調整額（益）311百万円を計上し親会社株主に帰属する四半期純損失696百万円（前年同期比58百万円改善）となりました。

当社グループの業績は、住宅事業およびマンション事業において、引渡し時期を顧客の要望に対応していることや、マンションの竣工引渡し時期の影響により、売上の計上時期が第2四半期と第4四半期に集中するといった季節の変動があります。

#### （セグメント別の概況）

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

戸建住宅におきましては、エコ・ファースト認定企業としての更なる取り組みとして、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）水準を上回る基準値を4月より標準仕様としております。なお、当第1四半期連結会計期間のZEH比率は100%（前年度92%）を達成しております。

賃貸・福祉住宅におきましては、前期に引続き脱炭素社会の実現に向け、賃貸集合住宅にてもZEHを標準化し普及に努めております。また、土地オーナー様を「土地活用倶楽部」として組織化し、税務等の相談会や事業者とのマッチング等を実施する事で、賃貸住宅や店舗・施設等の様々な土地活用提案を行っています。当第1四半期連結会計期間のZEH比率は90%となりました。

リフォームにおきましては、「春のリフレッシュフェア」を開催し、省エネ診断と環境省認定の「うちエコ診断士」がおこなう「うちエコ診断」を通して、こどもみらい住宅支援事業や長期優良住宅化リフォーム推進事業等に注力しました。

リニューアル流通(既存住宅流通)におきましては、断熱性や耐震性を含めた総合的なリノベーションを提案し、高品質で安心な中古住宅流通に注力しました。

フロンティア事業におきましては、サンヨーアーキテック株式会社にて太陽光、蓄電池等のエコ・エネルギー設備の販売にとどまらず、当社軽量鉄骨技術を生かした鉄骨構造躯体の販売、請負に注力しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の住宅事業の経営成績につきましては、売上高4,397百万円(前年同期比16.8%増)、営業損失492百万円(前年同期比23百万円改善)となりました。

マンション事業におきましては、当第1四半期においては新規の竣工物件、販売開始物件はなく、当期竣工予定の「ローレルコート亀岡駅前」（京都府亀岡市：96戸）、「サンメゾン三国ヶ丘レジデンス」（大阪府堺市：82戸）の販売、施工に注力するとともに完成済物件や、2024年3月期竣工予定物件の「サンメゾンなかもず駅前」（大阪府堺市：68戸）の販売開始に向けて販売準備にも注力しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間のマンション事業の経営成績につきましては、売上高1,522百万円(前年同期比41.2%減)、営業損失255百万円(前年同期比3百万円悪化)となりました。

ライフサポート事業におきましては、マンション管理、介護・保育施設運営、寄り添いロボットの開発・販売等の生活支援サービスや地方創生を担っており、4月には「サンフレンズ」保育園1施設を新規開園、6月には3ヶ所となるリハビリ型デイサービス施設「サンアドバンス大日」をオープンしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間のその他事業の業績は、売上高979百万円(前年同期比5.7%増)、営業損失69百万円(前年同期比7百万円悪化)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産額は44,172百万円となり、前連結会計年度末と比較し2,714百万円の減少となりました。主な要因は、繰延税金資産302百万円の増加、現金及び預金1,108百万円、受取手形・完成工事未収入金等1,064百万円、販売用不動産998百万円の減少等によるものです。

負債総額は30,112百万円となり、前連結会計年度末と比較し1,726百万円の減少となりました。主な要因は、前受金170百万円の増加、支払手形・工事未払金等889百万円、長・短借入金238百万円、未成工事受入金230百万円の減少等によるものです。

純資産総額は14,060百万円となり、前連結会計年度末と比較し987百万円の減少となりました。主な要因は、利益剰余金988百万円の減少等によるものです。

## (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変化はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は31百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において研究開発活動の状況に重要な変化はありません。

## (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

住宅業界は、新型コロナウイルス感染症の影響、木材、鋼材価格の高騰、原油等の資源価格等の高騰等経済状況に対する影響は非常に大きく、また、住宅ローン金利の上昇傾向等、不動産価格や住宅需給動向等の不透明な状況が想定されます。また、時代の変化や技術の進化のスピードは想像をはるかに超えたものであり、新たな仕組みや方策を取り入れ、革新的な価値を創造するべく、ビジネスモデルの改革を含めた幅広い変革に取り組んでいかなければなりません。

このような中、当社グループは、企業価値の更なる向上を目指し、スローガンである「人と地球がよるこぶ住まい」、事業コンセプトである「エコ&セーフティ」を実践し、お客様に寄り添いながら地球環境の保全に努め、ブランド力を強化し持続的成長を図ってまいります

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,620,000	12,620,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数100株
計	12,620,000	12,620,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	12,620,000	-	5,945,162	-	2,945,162

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 959,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,656,200	116,562	-
単元未満株式	普通株式 4,100	-	-
発行済株式総数	12,620,000	-	-
総株主の議決権	-	116,562	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、役員向け株式給付信託が所有する当社株式584,200株(議決権5,842個)が含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄の普通株式には、役員向け株式給付信託が所有する当社株式47株が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サンヨーホームズ株式会社	大阪市西区西本町一丁目4番1号	959,700	-	959,700	7.60
計	-	959,700	-	959,700	7.60

(注) 上記のほか、役員向け株式給付信託が所有する当社株式584,247株を、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第26期連結会計年度 有限責任監査法人トーマツ

第27期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 仰星監査法人



1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	9,038,497	7,930,460
受取手形・完成工事未収入金等	2,572,912	1,507,929
販売用不動産	16,790,462	15,792,223
仕掛販売用不動産	12,356,270	12,367,397
未成工事支出金	139,358	183,875
その他の棚卸資産	195,441	186,449
前払費用	334,065	408,252
その他	368,526	399,843
貸倒引当金	5,000	5,000
流動資産合計	41,790,534	38,771,431
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	1,678,767	1,655,327
土地	980,243	980,243
その他(純額)	42,956	64,043
有形固定資産合計	2,701,967	2,699,613
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	47,497	50,116
その他	38,032	34,732
無形固定資産合計	85,529	84,849
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	31,340	31,340
繰延税金資産	793,166	1,096,073
その他	1,488,420	1,492,737
貸倒引当金	4,068	3,260
投資その他の資産合計	2,308,858	2,616,890
固定資産合計	5,096,355	5,401,353
資産合計	46,886,890	44,172,785

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,038,438	3,149,391
短期借入金	6,470,000	5,410,000
1年内返済予定の長期借入金	2,633,000	2,720,000
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払費用	470,267	386,835
未払法人税等	143,799	25,351
未成工事受入金	4,091,403	3,860,946
前受金	190,046	360,077
賞与引当金	218,315	172,316
完成工事補償引当金	105,400	106,000
その他	967,283	665,332
流動負債合計	19,427,955	16,956,252
固定負債		
長期借入金	10,071,000	10,806,000
社債	400,000	400,000
繰延税金負債	24,492	16,478
役員株式給付引当金	155,560	163,239
役員退職慰労引当金	15,283	9,533
退職給付に係る負債	1,359,483	1,372,177
その他	385,061	388,863
固定負債合計	12,410,881	13,156,292
負債合計	31,838,836	30,112,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,945,162	5,945,162
資本剰余金	3,600,398	3,600,398
利益剰余金	6,575,630	5,587,502
自己株式	1,059,181	1,059,181
株主資本合計	15,062,009	14,073,881
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	13,955	13,640
その他の包括利益累計額合計	13,955	13,640
純資産合計	15,048,053	14,060,240
負債純資産合計	46,886,890	44,172,785

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	7,278,789	6,899,060
売上原価	6,148,266	5,902,074
売上総利益	1,130,523	996,985
販売費及び一般管理費	2,196,501	1,994,033
営業損失( )	1,065,978	997,047
営業外収益		
受取利息	1,870	1,500
受取賃貸料	9,527	9,596
助成金収入	21,970	23,617
その他	14,405	1,938
営業外収益合計	47,773	36,652
営業外費用		
支払利息	33,592	30,995
その他	15,728	2,476
営業外費用合計	49,321	33,471
経常損失( )	1,067,526	993,866
税金等調整前四半期純損失( )	1,067,526	993,866
法人税、住民税及び事業税	82,215	13,815
法人税等調整額	394,879	311,060
法人税等合計	312,664	297,244
四半期純損失( )	754,862	696,621
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	754,862	696,621

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失( )	754,862	696,621
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	1,273	314
その他の包括利益合計	1,273	314
四半期包括利益	753,589	696,306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	753,589	696,306
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(業績連動型株式報酬制度)

(1)制度の概要

定時株主総会決議を得て、取締役（社外取締役及び監査等委員である取締役を除く。）及び執行役員（以下「取締役等」といいます。）を対象として、取締役等の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役等が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落によるリスクも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度（以下「本制度」という。）を導入しております。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として信託を設定し、信託を通じて当社株式の取得を行い、当社取締役等に対し、当社取締役会が定める株式交付規程に従って、各事業年度における業績達成度等一定の基準に応じて付与されるポイントに基づき、信託を通じて当社株式を交付する業績連動型株式報酬制度であり、取締役等が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時です。

なお、当社子会社であるサンヨーリフォーム株式会社、サンヨーホームズコミュニティ株式会社及びサンヨーアーキテック株式会社の代表取締役についても、当社の取締役等と同様に、本制度を導入することを対象子会社の株主総会において決議しております。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第1四半期連結会計期間における当該自己株式の帳簿価額は383,526千円、株式数は584,247株であります。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

なお、今後の本感染症による影響については、今後の広がり方や収束時期等に不確実性が高いため、当該仮定と乖離が生じた場合には将来の当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

住宅ローン及びつなぎローン利用による当社住宅購入者のために当社が金融機関に対して保証している金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
顧客（住宅資金借入債務）	2,026,633千円	679,777千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

当社グループの業績は、住宅事業およびマンション事業において、引渡し時期を顧客の要望に対応していることや、マンションの竣工引渡し時期の影響により、売上の計上時期が第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中するといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
減価償却費	30,175千円	32,989千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月14日 取締役会	普通株式	282,756	25	2021年3月31日	2021年6月3日	利益剰余金

(注) 2021年5月14日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金6,559千円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会	普通株式	291,506	25	2022年3月31日	2022年6月2日	利益剰余金

(注) 2022年5月13日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式給付信託口が保有する当社株式に対する配当金14,606千円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅事業	マンション 事業	計				
売上高							
関東	682,634	1,641,727	2,324,361	-	2,324,361	-	2,324,361
中部	497,727	223,682	721,409	-	721,409	-	721,409
近畿	1,563,853	320,043	1,883,897	-	1,883,897	-	1,883,897
九州	767,726	385,093	1,152,819	-	1,152,819	-	1,152,819
その他(区分外)	198,796	-	198,796	922,875	1,121,672	-	1,121,672
顧客との契約から生じる 収益	3,710,738	2,570,545	6,281,284	922,875	7,204,160	-	7,204,160
その他の収益	52,712	18,167	70,879	3,748	74,629	-	74,629
外部顧客への売上高	3,763,450	2,588,713	6,352,164	926,625	7,278,789	-	7,278,789
セグメント間の内部売上 高又は振替高	13,249	540	13,789	4,769	18,558	18,558	-
計	3,776,700	2,589,253	6,365,953	931,395	7,297,348	18,558	7,278,789
セグメント損失( )	515,859	252,160	768,020	62,448	830,468	235,510	1,065,978

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフサポート等に関連する全地域を一括管理しているものであります。

2. セグメント損失の調整額 235,510千円の内容は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅事業	マンション 事業	計				
売上高							
関東	679,126	568,282	1,247,409	-	1,247,409	-	1,247,409
中部	818,390	84,334	902,725	-	902,725	-	902,725
近畿	1,964,240	563,797	2,528,037	-	2,528,037	-	2,528,037
九州	543,880	279,442	823,322	-	823,322	-	823,322
その他(区分外)	340,753	-	340,753	971,568	1,312,322	-	1,312,322
顧客との契約から生じる 収益	4,346,391	1,495,857	5,842,249	971,568	6,813,817	-	6,813,817
その他の収益	50,848	26,287	77,135	8,106	85,242	-	85,242
外部顧客への売上高	4,397,239	1,522,144	5,919,384	979,675	6,899,060	-	6,899,060
セグメント間の内部売上 高又は振替高	837	540	1,377	1,815	3,193	3,193	-
計	4,398,077	1,522,684	5,920,762	981,491	6,902,253	3,193	6,899,060
セグメント損失( )	492,146	255,259	747,406	69,460	816,866	180,180	997,047

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライフサポート等に関連する全地域を一括管理しているものであります。

- セグメント損失の調整額 180,180千円の内容は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第26期第2四半期連結会計期間より、フロンティア事業であるサンヨーアーキテック(株)にて施工と部材を一体とした、いわゆる住宅請負の営業活動を本格的に実施したことにより、経営管理区分の見直しを行っています。このため、従来「その他」に含めていたフロンティア事業を「住宅事業」へ区分変更しています。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しております。



(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり四半期純損失	68円33銭	62円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(千円)	754,862	696,621
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失(千円)	754,862	696,621
普通株式の期中平均株式数(株)	11,047,887	11,076,012

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数の算定に当たり、その計算において控除する自己株式に、役員向け株式給付信託が所有する当社株式(前第1四半期連結累計期間262,372株、当第1四半期連結累計期間584,247株)を含めております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2022年5月13日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....291,506千円
- (ロ) 1株当たりの金額.....25円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年6月2日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月8日

サンヨーホームズ株式会社  
取締役会 御中

仰星監査法人  
大阪事務所

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田邊 太郎

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 西田 直樹

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサンヨーホームズ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サンヨーホームズ株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### その他の事項

会社の2022年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2021年8月13日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2022年6月23日付けで無限定適正意見を表明している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。